



国指定遺跡 星ヶ塔黒曜石原産地遺跡 (以下星ヶ塔遺跡) は、南信森林管理署管内の東侯国有林内に位置しています。



星ヶ塔遺跡の黒曜石発掘抗

付近は本州のほぼ中央にあり、ガラス質火山岩「黒曜石」の原産地が数多く存在する地域として知られ、本州最大の黒曜石原産地と呼ばれています。

黒曜石は、打ち割ることによって容易に鋭い刃を持つ欠片を手に入れることができ、細かな打ち割りによる加工を加えることで様々な形に変形することが可能などことから石器時代の石器の原料として広く用いられました。

黒曜石は、遠隔地まで流通されたことが知られており、黒曜石を持ち運んだ

時の人々の動態や交流、徒歩に頼った時代の遠方との結びつきなど黒曜石が流通していた頃の社会のあり方を解明する試みが行われています。

星ヶ塔遺跡は、霧ヶ峰山塊の北西部にある星ヶ塔山の東斜面の標高一、五〇〇の林内に広がる縄文時代の黒曜石採掘遺跡です。現在までの調査では、約三五、〇〇〇平方メートルの範囲に縄文時代の黒曜石採掘跡が一九三か所分布していることが明らかになっています。発掘調査により縄文時代前期(約五七〇〇年前)と晩期(約三〇〇〇年前)の黒曜石採掘跡が発見され、長期間にわたる黒曜石採掘跡であることがわかっています。

星ヶ塔遺跡の黒曜石は、理化学的産地分析により東北から東海地方までの極めて広い範囲に供給されていることが明らかにされています。

このように星ヶ塔遺跡は、縄文時代の資源開発と流通を考えるうえで極めて重要な遺跡として、平成二十七年三月に国史跡に指定されました。

星ヶ塔遺跡について、史跡を管理する地



縄文人が掘り出した黒曜石



下諏訪町埋蔵文化財センターのジオラマ

方公共団体として下諏訪町が指定され、管理、運営及び活用等を図るため、遺跡を中心に周辺約三公顷の国有林を下諏訪町からの申請を受けて貸付けしています。

自家用車等での入山ができないことから、希望者向けに下諏訪町教育委員会が開催する見学会等が行われています。

また、平成二十九年四月二十九日に開館した下諏訪町埋蔵文化財センターでは、諏訪地方で発掘された黒曜石や土器の展示のほか、星ヶ塔遺跡で発見された黒曜石発掘抗を忠実に再現したジオラマがあり、訪れる人々の目を引いています。

◆星ヶ塔の由来

星ヶ塔遺跡を訪れるとカラマツ三十九年生の林内に点在する黒曜石採掘跡地から古代の人々が打ち割ったと思われる黒曜石の細かな欠片が無数に確認できます。晴れの日は、日の光を反射し、雨の日は黒光りが増し、夜は月光りや懐中電灯の光を

受けて幻想的な輝きを放ちます。

星ヶ塔遺跡を発見した鳥居龍蔵によれば、星ヶ塔はもともと「ホシノトウゲ」と呼ばれていたようです。星ヶ塔遺跡の東側は、鷲ヶ峰の山裾と星ヶ塔山の間へこんだ部分であり、山道の峠になっています。この峠に「ホシ」があることからホシノトウゲと呼ばれていたのですが、昔の人々は黒曜石のことを夜空に輝く星のかげらと考え「ホシクソ」と呼んでおり、そのホシクソが峠道にたくさんあることから「ホシノトウゲ」という地名がつけられました。のちにそれがホシノトウ、そして「ホシガトウ」と呼ばれるようになり、その後漢字が当てられ、現在の「星ヶ塔」となったとのことです。



星ヶ塔周辺の遠望

問合せ先 下諏訪町埋蔵文化財センター
電話【0266(27)1800】